

モンゴル国・オロン・スム寺院址の発掘調査

仏教堂宇・壁画・白樺樹皮写本の発見

2025-2026年 モンゴル・日本共同発掘調査



このファイル
(PDF)



説明ファイル
(WORD)

松川 節 | 大谷大学名誉教授

2026年10月16日 (金)



画像・映像ファイル
(769.8MB)

調査の実施体制と研究助成・研究費

日本側研究機関



モンゴル側研究機関

モンゴル科学アカデミー 歴史・民族学研究所



所長：Lh. エルデネボルド (2025) S. チョローン (2026)

モンゴル・日本共同「ビチェース・プロジェクト」の一環として実施（「ビチェース」は「碑文」の意味）

2025年 | 科研費

◇ 基盤研究 (B) (一般) 23K25377

モンゴル帝国時代における「草原のシルクロード」をつなぐ仏教施設の研究

代表：村岡 倫 (龍谷大学文学部教授)

2026年 | 研究助成・研究費

◇ 平和中島財団「2026年度アジア地域重点学術研究助成」

モンゴル国オヴオルハンガイ県オロン・スム寺院址の本格発掘調査—16～17世紀モンゴル仏教寺院の成立と廃絶過程の解明

代表：三宅伸一郎 (大谷大学文学部教授)

◇ 中田裕子准教授 (龍谷大学農学部) の研究費

今回の主な発見

要点 ①

仏教堂宇の構造を確認



要点 ②

仏像断片・壁面に残る
仏教壁画



要点 ③・④

- ・モンゴル文字による白樺樹皮写本
- ・「チンギス・ハーン」
の訓戒に類似する文章



主たる3つの堂宇址

オロン・スム寺院址の位置

要点 ①・②

モンゴル国ウブスハンガイ県オヤンガ郡
ウランバートルから道路距離約490 km

要点 ③・④

- ・ハンガイ山地南麓・標高約2,150 m
- ・内モンゴルの同名遺跡とは別の遺跡

遺跡空撮



草原に残された大規模寺院址

要点 ①・②

基壇などの構造物：13基

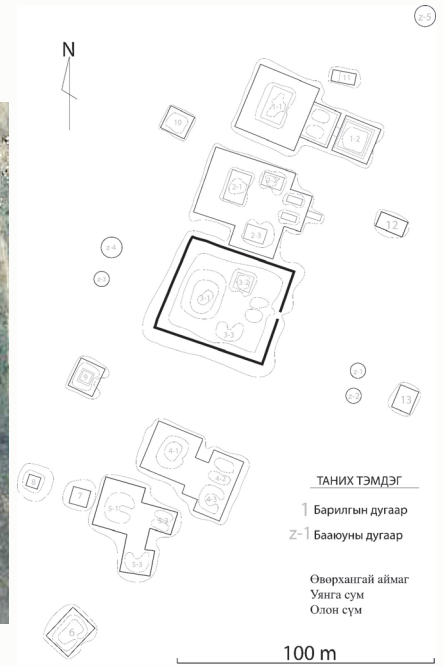
基壇上の建物：計22棟

要点 ③・④

- ・瓦・煉瓦を焼いたとみられる窯跡：5基
- ・北東部に三つの大型堂宇が並ぶ



(Google Map)



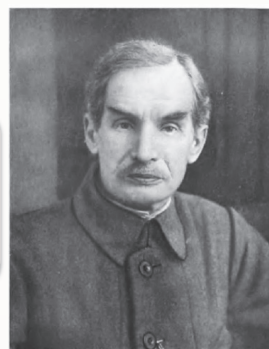
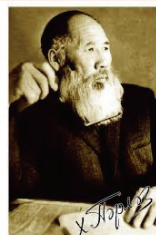
約100年前の調査と再発掘

要点 ①・②

1925年：P. コズロフが中央堂宇を発掘
仏教遺物・白樺樹皮文書が出土

要点 ③・④

- ・1965年：Kh. ペルレーが調査
- ・2025年：共同調査を再開



П. К. Козлов



発掘現場に立つコズロフ。(写真：モンゴル科学アカデミー歴史・民族学研究所提供)

ЗИМОВКА В ХАНГАЕ

11 октября 1925 г.

Ясное, прозрачное, тихое утро. Ходили умываться к роднику, измерили температуру воды: +15,1° С. Этот ключ, сбегая с террасы, разливается и образует небольшое болотце среди камней. Елизавета Владимировна отправилась на экскурсию в ближайшую падь, у входа в которую расположен наш бивак. Я поехал осматривать развалины Олуи-суме, отмеченные накануне в 1 1/2 км от лагеря, вниз по Онгинин-толу. По-видимому, это развалины храмов, с остатками фундамента и кирпичных стен. Я решил вскрыть их и тщательно исследовать с помощью рабочих-монголов. Пока бродил по олуи-суме, удалось найти на поверхности земли, или торчащими частично из-под земли, глиняные лепные украшения разрушенных храмов. Попадались больше барельефы с изображениями человеческих лиц и санскритских знаков. Сейчас развалины имели вид ряда холмов, протянувшихся правильной линией поперек долины реки и покрытых степной растительностью. Каждая группа построек располагалась на отдельном насыпном возвышении, на общем фундаменте, сложенном из гранитных плит. Поднявшись на такое возвышение, можно было различить несколько небольших холмов — остатков внутренних помещений разнообразной формы. Я сделал фотографические снимки с Олуи-суме и прилегающих частей долины Онгинин-тола и на этом закончил первую рекогносцировку.

12 октября.

Ночь была ясная, со слабым ветром, дувшим с гор. Под утро температура упала до —1,5° С. Начали раскопку Олуи-суме. Обнаружили каменный порог и при входе в помещение — несколько обрывков березовой коры с монгольскими письменами, а также золоченые и крашенные кусочки глины, нечто вроде длинного гвоздя и немного другое. Под самым верхним слоем земли залегают обломки глиняной посуды и части барельефов; попадает также и уголь. Днем стало пасмурно, небо покрылось ополхшими темными тучами, холодно. Фотографировать не пришлось.

Козлов в 1925 году. Орон-суму развалины были 1925 года 10月11日に予備的に開始され、モンゴル文字文書、彩色塑像、金彩装飾、サンスクリット系浮彫、木炭層を確認しており、オロン・スムが単なる魔寺ではなく、中世モンゴル仏教遺跡として重要であることを早くも認識していた。

2025年：西側堂宇の試掘

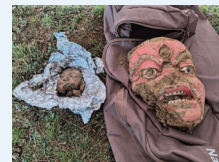
要点 ①

2025年8月20日～9月4日

日本側：村岡倫教授、松川節教授、松田孝一名誉教授
モンゴル側：Lh.エルデネボルド所長、E.オルトナサン研究員、A.ナムスライジャムツ研究員ら

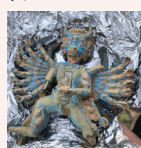
要点 ②

大型忿怒尊像の頭部を発見



要点 ③・④

- ・ヤマンタカ像・小型如来坐像
- ・軒丸瓦など多数の仏教遺物



大型忿怒尊像の頭部

要点 ①・②

高さ約30 cm／赤色彩色・第三の眼
堂宇入口内側の側室から出土

要点 ③・④

- ・立像なら全高約2 mの可能性
- ・尊格の特定は今後の課題



ヤマーンタカ像と小型如来坐像

要点 ①・②

ヤマーンタカ像：高さ約15 cm・多臂・青色彩色

※男女双身像だった可能性

要点 ③・④

- ・小型如来坐像：高さ約10 cm
- ・パーラ様式に通じる造形的特徴
- ・その他、軒丸瓦も多数出土
 - ・「ナンジワンダン」と呼ばれる、仏教の陀羅尼文字を刻んだ瓦



ヤマーンタカ像



小型如来坐像



軒丸瓦(ナンジワンダン)



軒丸瓦(獣面文)

エルデネ・ゾー寺院との建築比較

要点 ①

仏像の図像・美術様式

要点 ②

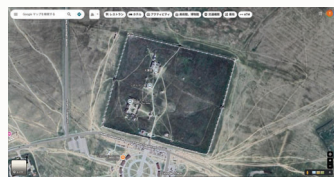
後世の文献・伝承に乏しいこと

要点 ③

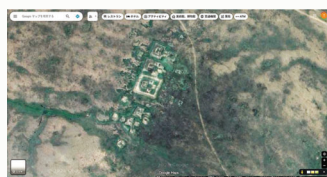
オロン・スム：三つの堂宇が東南東を向く
※エルデネ・ゾー寺院のゴルバン・ゾーも類似の配置

要点 ④

・類似性は直接の関係・同時期の建立を証明するものではない



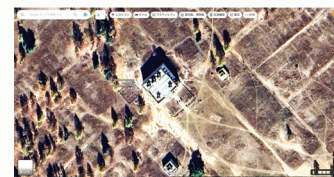
エルデネ・ゾー



オロン・スム



アマルバイサガラント



バルダン・ベレーベン

放射性炭素年代測定 (AMS)

要点 ①

仏像の心木：1506～1596年（73.4%）

要点 ②

野生動物の牙齒：1540～1635年（63.5%）

要点 ③・④

- ・ 香木（赤檀）：1492～1640年（95.4%）
- ・ しかし、試料の年代と寺院建立年は一致するとは限らない

表 2 放射性炭素年代測定結果 (暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	試料名	暦年較正用(yrBP)	較正条件	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
IAAA-250700	01	305 $\pm$ 20	OxCal v4.4	1524calAD - 1572calAD (56.6%)	1506calAD - 1596calAD (73.4%)
			IntCal20	1630calAD - 1641calAD (11.7%)	1617calAD - 1648calAD (22.0%)
IAAA-250701	02	339 $\pm$ 20	OxCal v4.4	1499calAD - 1525calAD (21.5%)	1480calAD - 1530calAD (31.9%)
			IntCal20	1559calAD - 1600calAD (33.2%)	1540calAD - 1635calAD (63.5%)
IAAA-250702	03	325 $\pm$ 20	OxCal v4.4	1513calAD - 1529calAD (12.8%)	1492calAD - 1640calAD (95.4%)
			IntCal20	1540calAD - 1591calAD (42.8%)	1620calAD - 1635calAD (12.6%)

2026年：東側堂宇の発掘

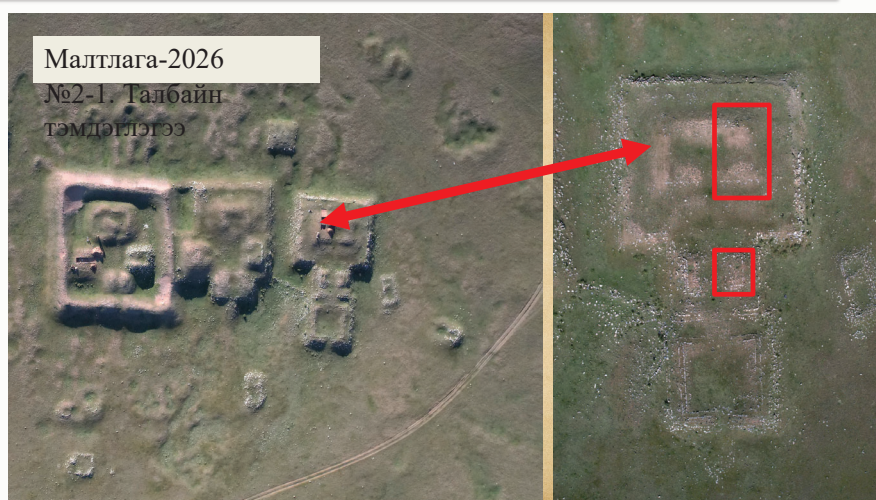
要点 ①

2026年8月12日～23日

日本側：三宅伸一郎教授、中田裕子准教授、松川節名誉教授、村岡倫名誉教授、松田孝一名誉教授、岩尾一史教授
モンゴル側：S.チョローン所長、E.オルトナサン研究員、A.ナムスライジャムツ研究員ら

要点 ②

東側大型堂宇の東半分を中心に調査



要点 ③・④

- ・ 南側の小型建物も試掘
- ・ 内部構造・礼拝空間の手掛かりを確認

東側堂宇の内部と右繞道

要点 ①

中央の礼拝空間と奥の仏像安置場所

要点 ②

聖なる対象を右回りに巡る右繞道（モンゴル語：ゴロー）



要点 ③・④

- ・中央部：木材の床／右繞道：突き固めた黄色粘土
- ・礼拝動線を建築構造から復元

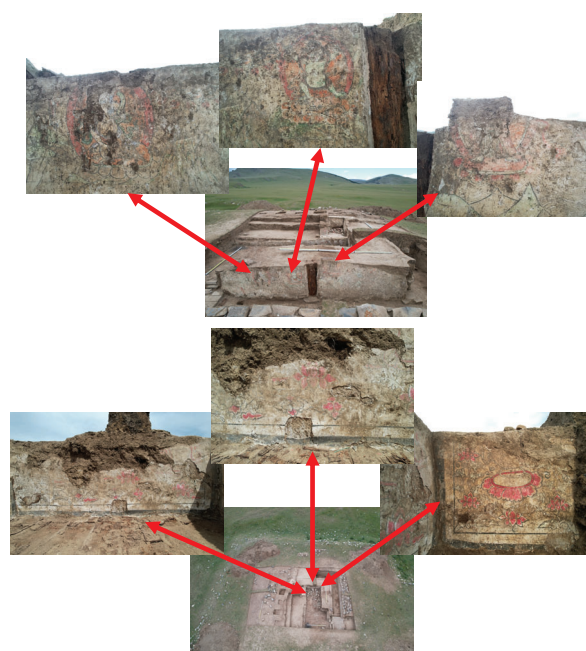
壁面に残された仏教壁画

要点 ①・要点②

壁面に描かれた状態で残存
仏教尊像とみられる人物・山・雲・蛇

要点 ③・④

- ・忿怒相の人物像
- ・中央礼拝空間には植物文様





大谷大学 | 2026年10月16日 研究成果記者説明会

15

白樺樹皮写本の発見

要点 ①

出土断片：計21点（2026年）

要点 ②

モンゴル文字を縦書きで記載

要点 ③・④

- ・ 1925年の調査でも白樺樹皮文書が出土
- ・ 今回、約100年ぶりに新たな文字資料を発見



16

「činggis qayan」の文字

要点 ①・②

保存状態のよい一片の冒頭に記載
「チングス・ハーン」の名を判読



2026年9月15日にウランバートルにて記者説明会を開催

要点 ③・④

- ・チングス・ハーン自身の筆跡を示すものではなく、同時代資料とも確認されていない。
- ・後世に伝承された訓戒の文章と類似



チングス・ハーンの訓戒と「アルガ・ビリグ」

オロン・スム出土白樺樹皮写本と『アルタン・トブチ』の比較

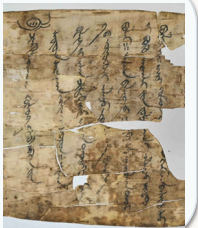
アルガ＝方法・計略 / ビリグ＝知恵
仏教の「方便」、「智慧」との関係も今後の検討課題

共通する比喻: 身近な獲物（山羊?）と山中のアルガリ（野生の羊）を対比し、方法と知恵の大切さを説く。

17世紀の歴史書『アルタン・トブチ』にも、同じ特徴的な比喻を含む訓戒が伝わる。

オロン・スム出土白樺樹皮写本（暫定訳）

- 01 チングス・ハーンは勇敢な子息たちを
- 02 教え諭して、次のように仰せになった。「計略と
- 03 知恵を使いこなせなければ、手近な
- 04 ……をすばやく殺して食べることは難しい
- 05 のである。計略と知恵を使いこなせれば、山に
- 06 ……いるアルガリ（野生の羊）の仔を殺して食べる
- 07 のである。異国の人を……と……
- 08-17 （以下、省略）



ロブサンダンジン『アルタン・トブチ』

- 91b30 等しくなる。計略と
92a01 知恵を知らなければ、手近な
92a02 山羊の仔を殺して食べることもさ
92a03 難しい。計略と知恵を知らば
92a04 山にいるアルガリ（野生の羊）の
92a05 仔を殺して食べることもたやすい
92a06 のである。異国の者を取るに足らないとて
92a07 妃たちを泣かせた者が多くいる。



発見の意義：チングス・ハーンの訓戒の伝承と、仏教寺院での受容を考える新資料

モンゴル仏教史への位置づけ

要点 ①・②

エルデネ・ゾー寺院：1586年
ヘセグ・バイシン碑文：1599年（説）

要点 ③・④

- ・内モンゴルのオロン・スム：16世紀末頃の碑文
- ・イフ・ボラギーン・ウンドゥル・ドブジョー：15世紀中葉～17世紀中葉
- ・各地の寺院の展開を考える新資料

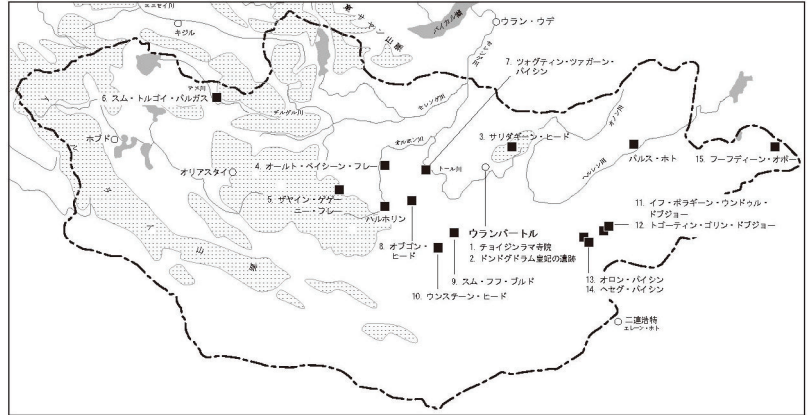


図1 発掘調査あるいは測量調査が行われた仏教関連遺跡（15世紀以降）の位置

大谷育恵「モンゴル国における仏教関連遺跡(15世紀以降)の調査状況」(『金大考古』80, 2021, pp.135-138)より引用。

2009年と2026年：文字資料が語る歴史

要点 ①

2009年：エルデネ・ゾー内の
ゴルバン・ゾー棟木墨書の解読を発表
万暦14（1586）年起工、翌年竣工。



要点 ②

2026年：オロン・スムの白樺樹皮写本を解読

要点 ③・④

- ・資料の性格・明らかになる事実は異なる
- ・建築・遺物・文字資料を結びつける共同研究



2009年：エルデネ・ゾー内 ギルバン・ゾーの棟木墨書

今後の研究課題

課題 ①

東側堂宇の未発掘部分を調査

課題 ②

1925年コズロフ調査資料との比較

課題 ③

- ・ 白樺樹皮写本の保存・解読・年代検討
- ・ モンゴル側機関との共同研究を継続

課題 ④

チンギス・ハーンの「ビリグ」の歴史的変遷の解明

- ・ モンゴル帝国時代におけるビリグの伝承と文字による記録
- ・ 後世への伝承と仏教思想の影響による変容
- ・ 出土白樺樹皮写本と『アルタン・トブチ』などの文献との比較研究

ご清聴ありがとうございました。